

~ Much Ado About Nothing ~



2018.1.29 17:00~18:30

Sophia University 7-4A

文学部横断型人文学プログラム
プロジェクト・ゼミ
芸術文化論コース

『から騒ぎ』



シエイクスピア

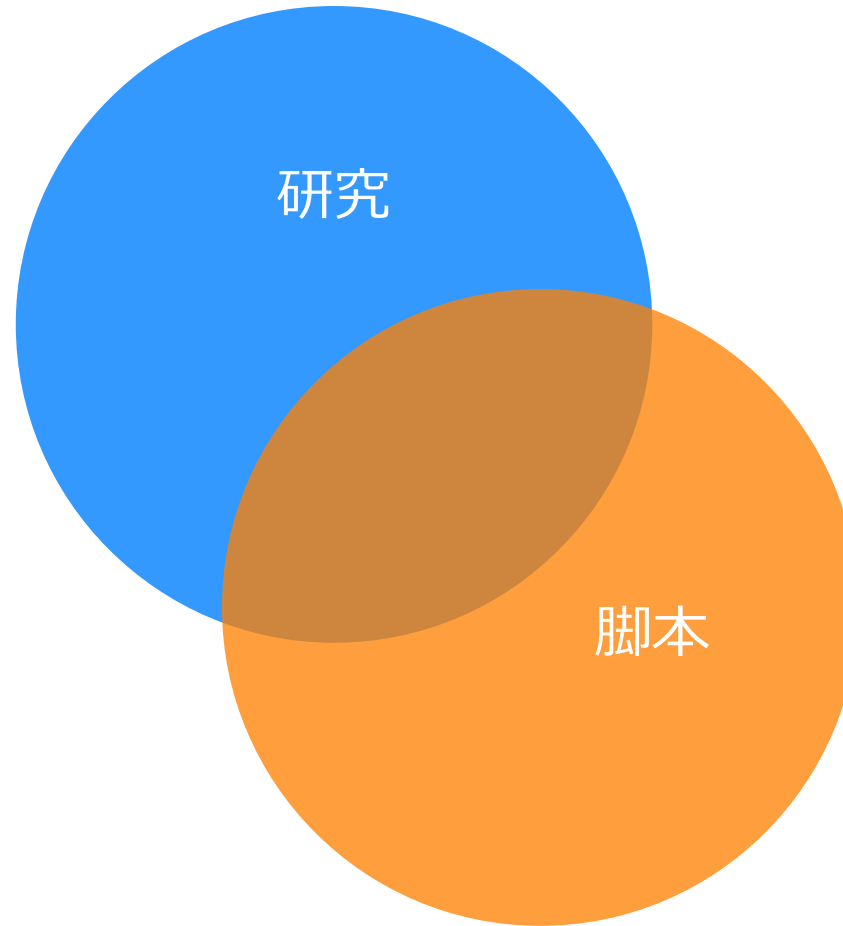
文学部横断型プロジェクトゼミ 2017

文学部横断型プロジェクトゼミ 2017

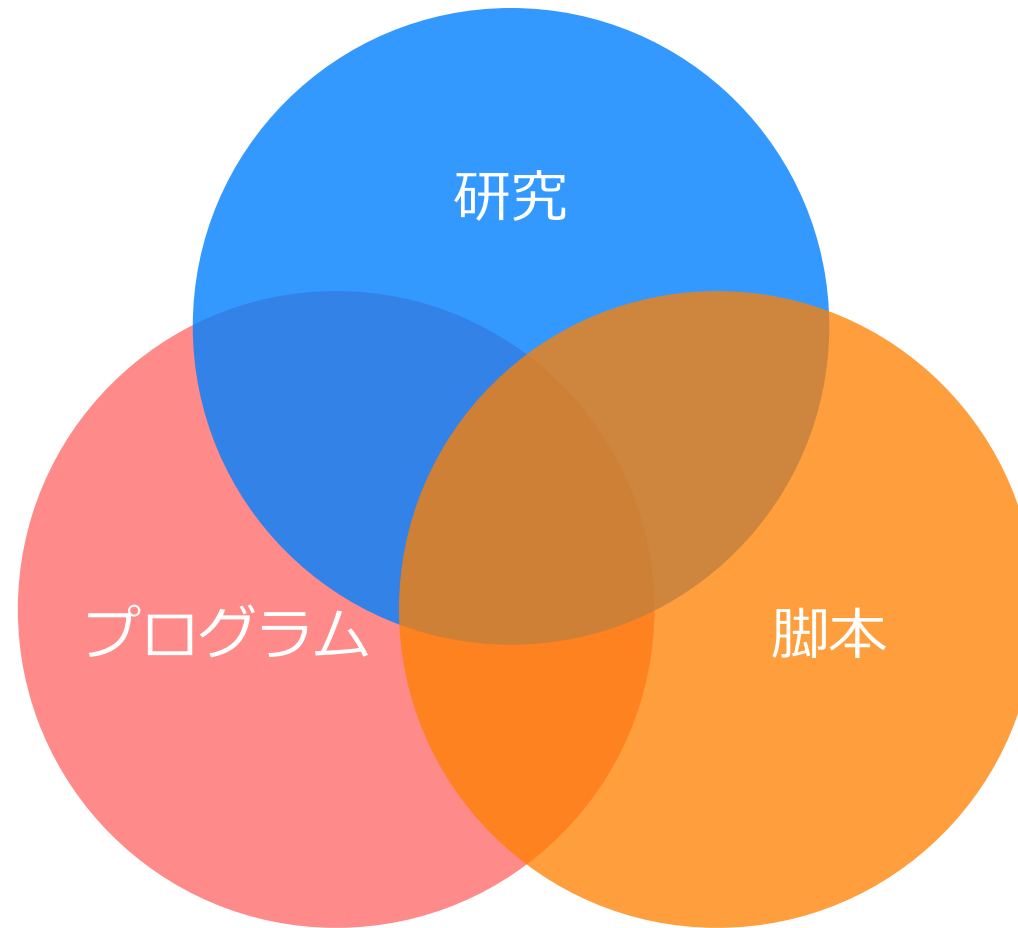


研究

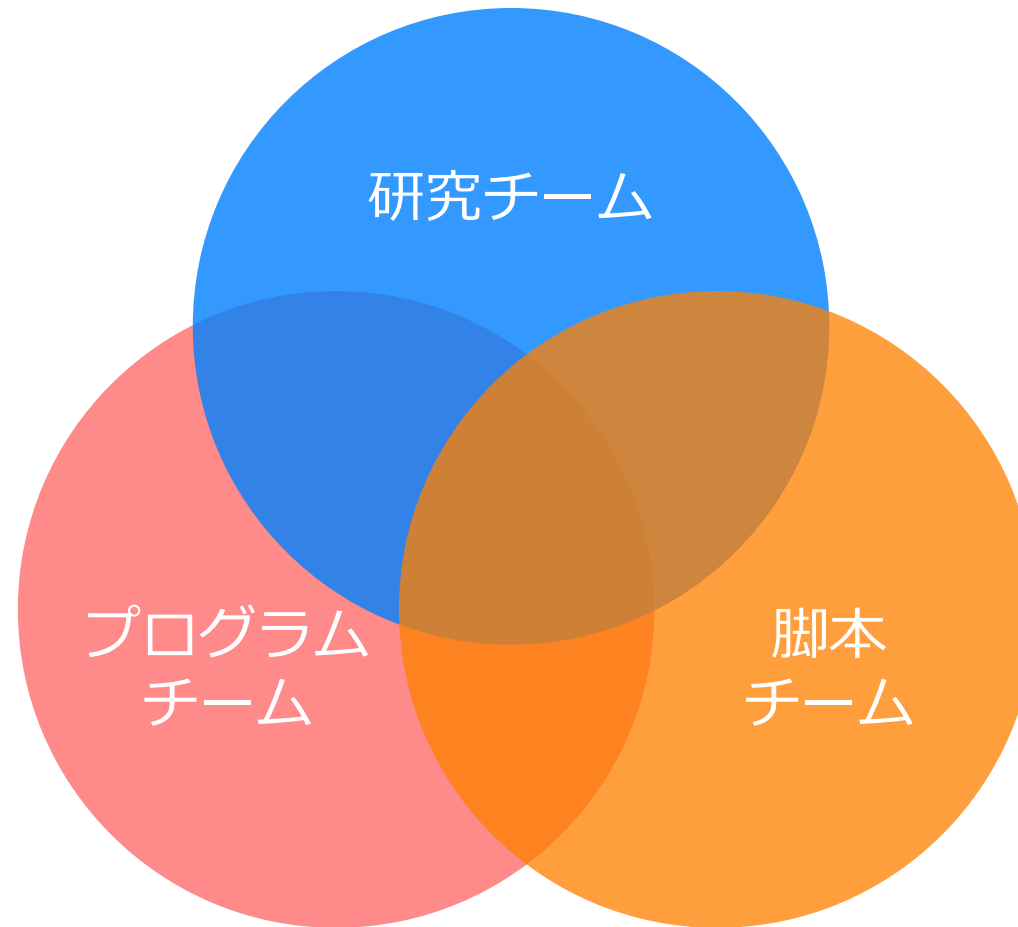
文学部横断型プロジェクトゼミ 2017



文学部横断型プロジェクトゼミ 2017



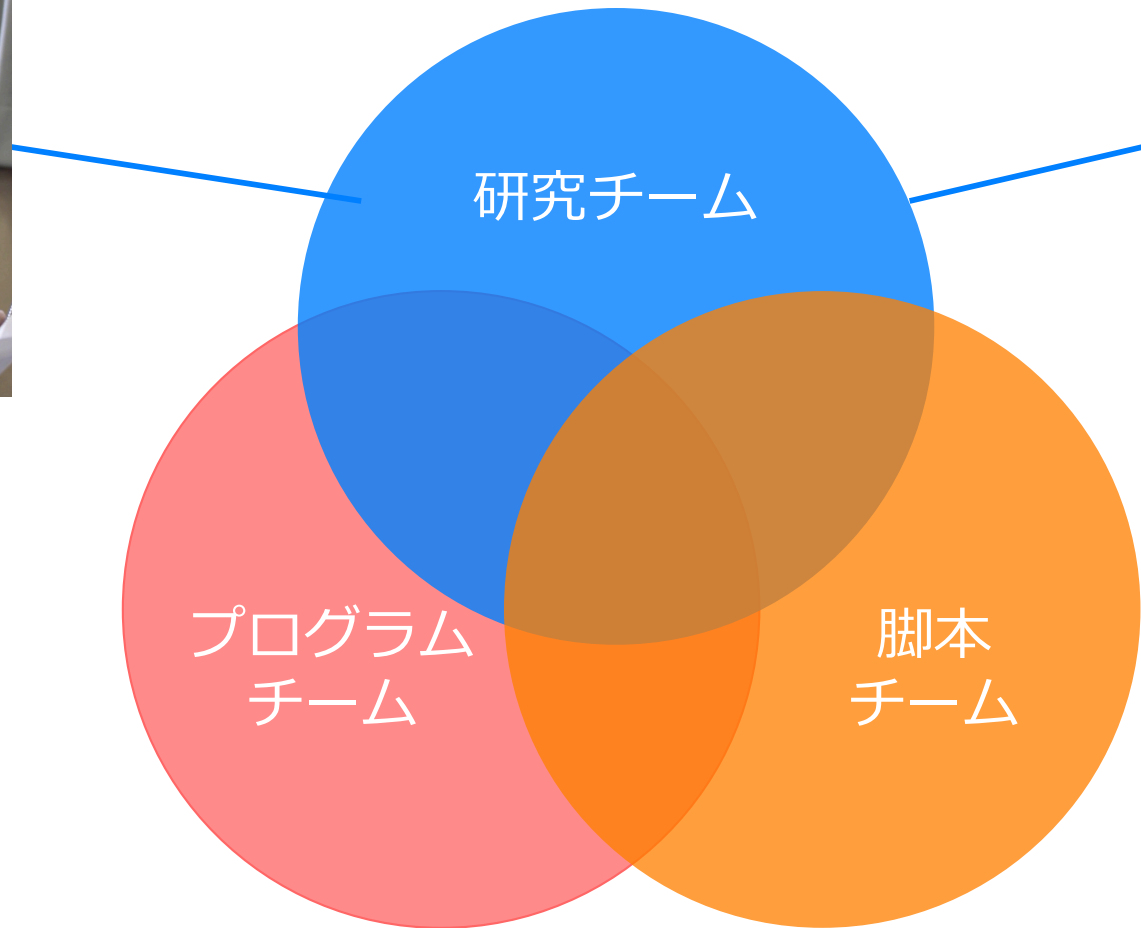
文学部横断型プロジェクトゼミ 2017



文学部横断型プロジェクトゼミ 2017



古園侑実子



柴垣泉美

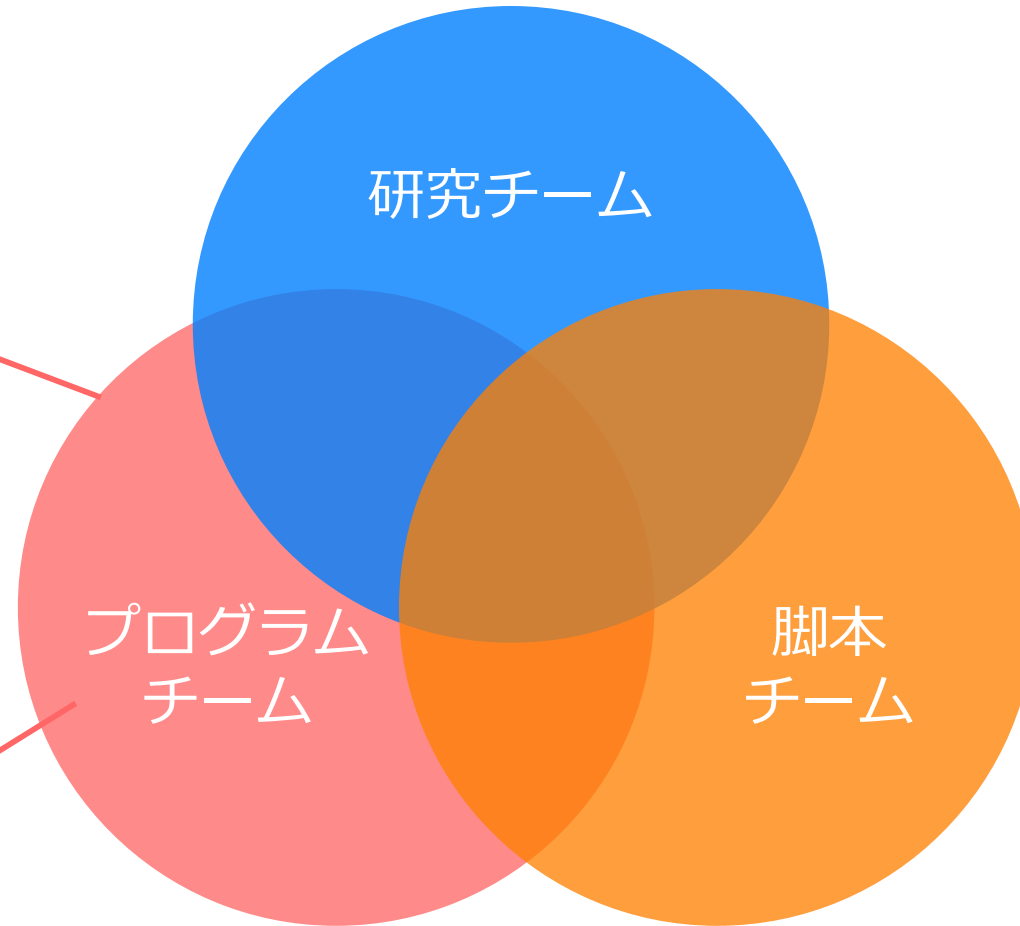
文学部横断型プロジェクトゼミ 2017



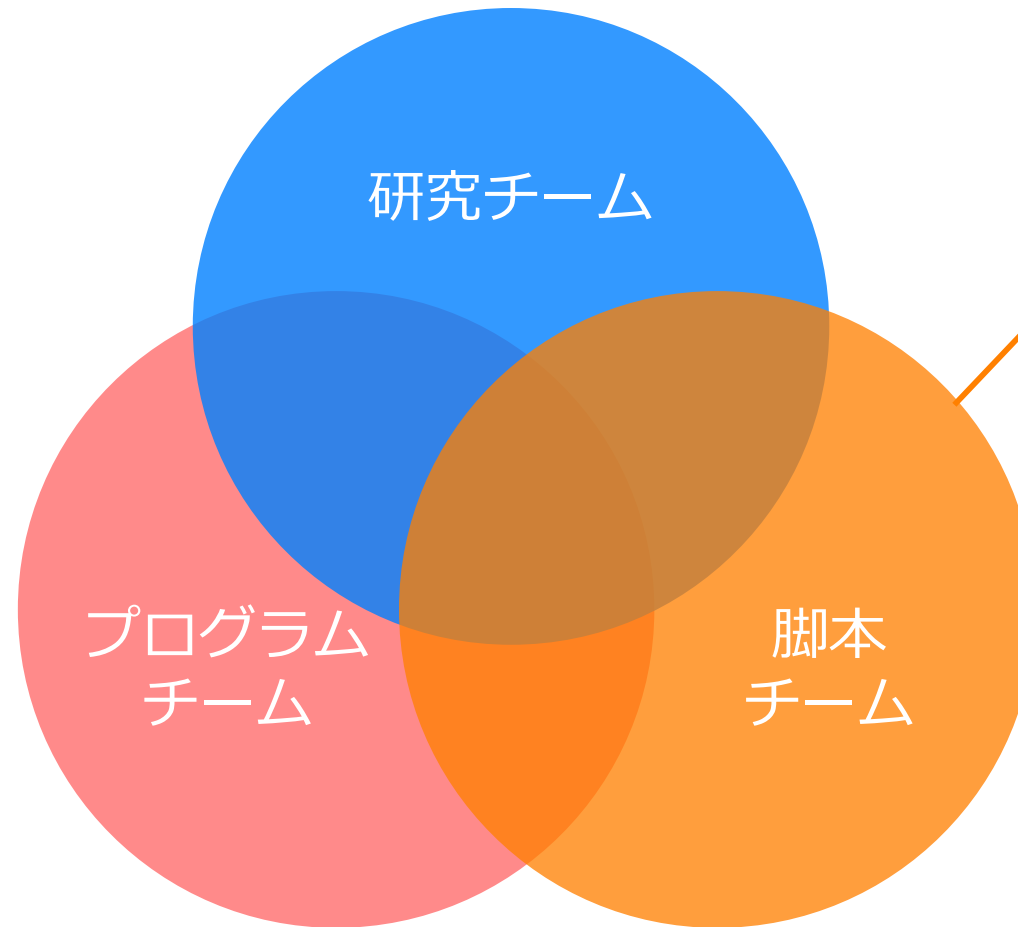
林美沙希



居石みおん

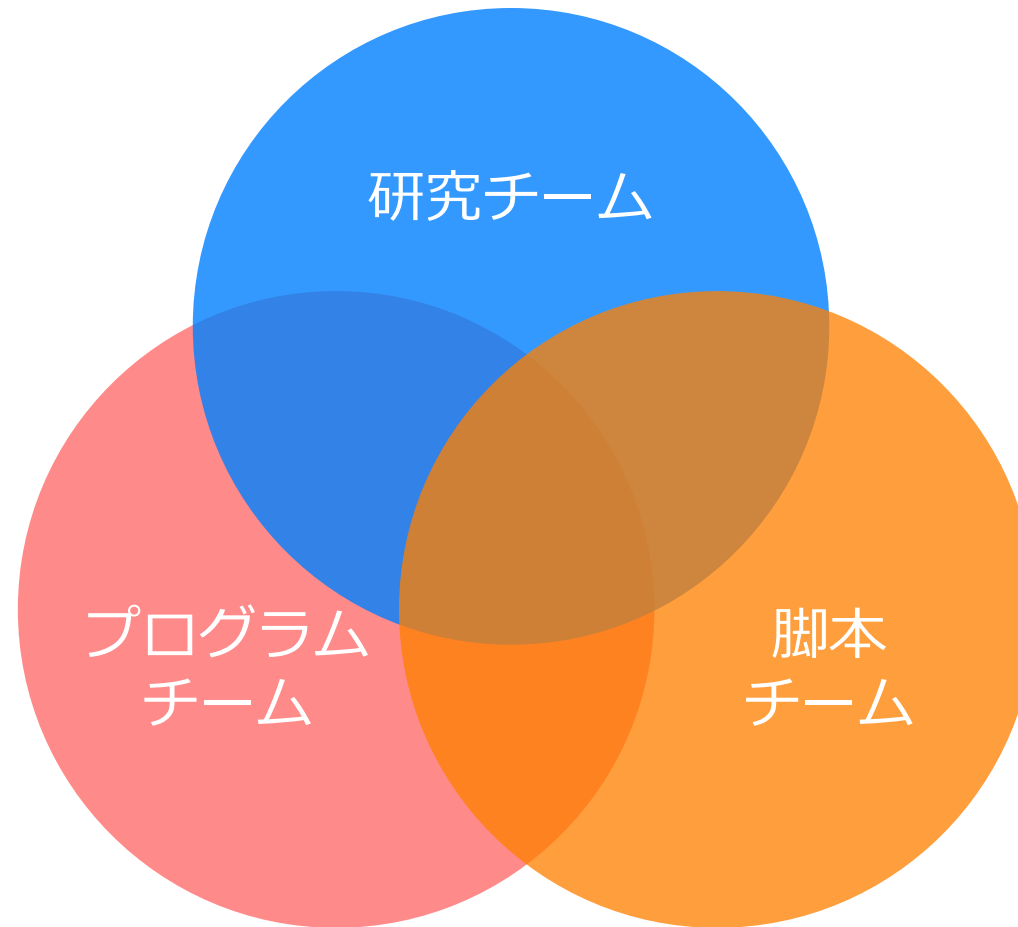


文学部横断型プロジェクトゼミ 2017



吉永佳世

文学部横断型プロジェクトゼミ 2017



全体サポート



橋本葵

1. はじめに
～文学部横断型プロジェクトゼミとは～
2. 研究チームの発表
3. プログラムチームの発表
4. ワークショップについて報告
5. 現代版『から騒ぎ』の上演
6. おわりに
7. 質疑応答

1. はじめに
～文学部横断型プロジェクトゼミとは～
2. **研究チームの発表**
3. プログラムチームの発表
4. ワークショップについて報告
5. 現代版『から騒ぎ』の上演
6. おわりに
7. 質疑応答

研究チーム

担当：柴垣泉美、古園侑実子

「蜷川幸雄作品からみる 異性装のもつ力」



はじめに

「異性装」の定義：

「女性が男性の服装を着る（男装）、
男性が女性の服装を着る（女装）
といった社会的、文化的な性規範に
則っていない服装をすること」

“artscape” 大日本印刷株式会社運営
(<http://artscape.jp/artword/index.php/>) より

第一節

なぜ、蜷川幸雄は
「オールメールシリーズ」という
異性装を用いた舞台を
手掛けようとしたのか

第二節

異性装にはどのような
演出効果があるのか

第二節

16,17世紀の驚きのカテゴリー

- (1) 超自然のもの。
- (2) 自然のもの。
- (3) 人工的なもの。

第二節

「オクタヴィアンの女性の
〈声〉という主体が、
舞台上の視覚情報との倒錯を
引き起こすことによって、
“ごつごつした
(男女によって二分されていない)
身体”を形成させる」

(中村美亜「トランス・ポリティクスの可能性—オペラと宝塚の
異性装をめぐるジェンダー・身体・認識論的考察—」、
『立命館言語文化研究20(1)』、立命館大学国際言語文化研
究所、2008年、246頁。)

第三節

異性装は歴史の中で
どのような役割を
もっていたか

第三節

ビアトリス 女にとってはまたとない幸せね—
おかげで質の悪い男に口説かれて
嫌な思いせずすむ。
私、神様と自分の冷たい血に感謝しているの、
その点私もあなたと同じ気持ちだわ。
男の人に「愛してる」なんて言われる
より、私の犬がカラスに吠えかかるの
を聞いているほうがずっといい。

ベネディック 神があなた様のお気持ちをいつまでも
お変えになりませんよう、
そうすればどこかの誰かが
顔をひっかかれずにすむ。

(シェイクスピア『シェイクスピア全集17 から騒ぎ』、
松岡和子訳、筑摩書房、2008年、16頁。)

第三節

異性装は歴史の中で
どのような役割を
もっていたか

→男女の権利の平等を
主張する手段

まとめ

異性装はただの娯楽的要素ではない



男女の権利の平等を主張

+

現代のジェンダーへ問題提起

1. はじめに
～文学部横断型プロジェクトゼミとは～
2. 研究チームの発表
3. プログラムチームの発表
4. ワークショップについて報告
5. 現代版『から騒ぎ』の上演
6. おわりに
7. 質疑応答

プログラムチーム

担当：居石みおん・林美沙希



- ①企画書の作成
- ②成果発表会の
宣伝チラシの作成
- ③プログラムの作成

① 企画書の作成

企画書

【タイトル】

文学部横断型人文学プログラム・芸術文化論ゼミ演出『から騒ぎ』の二つの場面

【演出クレジット】

・CAST

栗理奈美 (英文学科)
居石みおん (史学科)
林美沙希 (フランス文学科)
古園侑実子 (フランス文学科)
吉永佳世 (フランス文学科)
橋本実 (フランス文学科)

・STAFF

作 = ウィリアム・シェイクスピア
演出 = 文学部横断型人文学プログラム・芸術文化論ゼミ
企画製作・主催 = 文学部横断型人文学プログラム・芸術文化論ゼミ
協力 = 澤田華 (フランス文学科教授)
特別協力 = 上智大学文学部
製作 = 文学部横断型人文学プログラム・芸術文化論ゼミ

(一他にも舞台の上演では衣装・メイク・資料写真などがありますが、ここで挙げるとキリがないのでとどめえず今のところこれだけで…)

【文学部横断型プロジェクトゼミとは】

通常のゼミにおいては、参加者が専門領域の中の特定の分野やテーマについて趣々に研究を深めるが、「文学部横断型人文学プログラム」のゼミでは、教員と学生の提案するプロジェクトから授業の受講生と関心を共有できるものを選び、共同作業を通して、問題の発見とその解決としての成果発表を行う。今回私たちは「蜷川幸雄の『から騒ぎ』における女性役を男性が演じることによる性の効果」というテーマに決り、研究チーム、企画書・ビラ・プログラムチーム、脚本チームに分かれ、12名の成果発表会に向けそれぞれ準備を進めている。

【研究テーマを選んだ理由】

蜷川幸雄が演出を手掛けたシェイクスピアの戯曲の中には、女性役も全て男性が演じるオールメーソルシリーズがある。シェイクスピアが生きた時代(1564-1616)は、実際に劇場で俳優をできるのは男性のみであり、女性は舞台上に上がることは許されていなかった。現代に蜷川幸雄がオールメーソルシリーズの作品を作りあげたのはどんな意味があるかを研究したいと思い、その中でもシェイクスピア史上最大の喜劇と呼ばれる『から騒ぎ』を取り上げ、検証していく。

【『から騒ぎ』あらすじ】

メシーナの知事レオナートの令嬢ヒアローは、フロレンスの貴族クローディオに見初められ、訪問中のアラゴン侯主ドン・ペドロの手助けもあって結婚話が進んでいく。しかしドン・ペドロの弟のドン・ジョンが嫉妬からこの縁談を壊そうと企む。一方ヒアローの従姉妹のベアトリスとパチュアの貴族ベネディックはお互いにプライドが高く、金えば売り言葉に買い言葉を繰り返す喧嘩友達だった。が、結局二人はお互いに惹きつけられて恋仲になる。ところがクローディオの方はドン・ジョンに謀られて、従者とヒアローに見せかけた侍女の淫乱を見せつけられて激怒した。結婚式の真っ最中にクローディオは花嫁の怒りを煽発させるが、結局は従者の告白を聞いた聖妻ドグベリーへの証言で全てが解かる。晴れて誤解が解けてクローディオとヒアローは結婚、ベアトリスとベネディックと共に二組のカップルが誕生した。

【今回上演する『から騒ぎ』のシーン】→演出したシーンとその場面を選んだ理由

【キャストプロフィール】

◎ 栗理奈美
◎ 居石みおん

◎ 林美沙希 -Misaki Hayashi-

1996年生まれ、埼玉県出身。「フランス文学科」劇団所属。大学より演劇を始め、現在に至る。最近、高校生を対象としたワークショップを主催し、積極的に活動している。主な出演作は『Show must go on!』『銀河鉄道夜明け』などがある。趣味は『水曜どうでしょう』鑑賞。

◎ 古園侑実子
◎ 吉永佳世
◎ 橋本実

【公演日時】

2018年1月29日(火)17:30

【会場】

上智大学 7号館 4F A教室
〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町7-1
JR中央線、東京メトロ丸の内線・南北線 四ツ谷駅 徒歩10分・赤坂口から徒歩5分

【チケット料金】

一般前売 2,000円予定(ほか各種割引予定)

現代版『から騒ぎ』を 本当の舞台を想定し、 その上演企画書を作成

CAST・STAFF・公演の趣旨 日時情報・会場などを記載

② 成果発表会のチラシの作成

文学部横断型人文学プログラム プロジェクト・ゼミ(芸術文化論コース) 成果発表会のお知らせ

日時：2018年1月29日（月）17：00～18：30

場所：上智大学 7号館 4階 A教室

鶴川幸雄演出・シェイクスピア『から騒ぎ』における異性装の効果

【研究テーマを選んだ理由】

鶴川幸雄が演出を手掛けたシェイクスピアの戯曲の中には、女性役も全て男性が演じるオールメールシリーズがあります。シェイクスピアが生きた時代は、実際に劇場で俳優をできるのは男性のみであり、女性は舞台上に上がることは許されていませんでした。私たちはシェイクスピア最大の喜劇と呼ばれる『から騒ぎ』を取り上げ、異性装が作品においてどのような効果をもたらすのか、そして鶴川幸雄が現代にオールメールシリーズの作品を作りあげたのはどのような意味があるのかという好奇心からこのテーマにしました。

【発表内容】

① 『鶴川幸雄演出『から騒ぎ』における異性装の効果』研究発表

② 現代版に書き換えた『から騒ぎ』の戯曲の一場面上演と解説

当日は、ゼミ生が作成したオリジナルパンフレットを配布致します。

※なお、発表内容は変更する場合がございます。ご了承ください。

ゼミ担当：澤田 肇 教授

居石 みおん (史学科) 柴垣 泉美 (英文学科)
橋本 葵 (フランス文学科) 林 美沙希 (フランス文学科)
古岡 侑実子 (フランス文学科) 吉永 佳世 (フランス文学科)



【研究テーマを選んだ理由】、
【発表内容】などを記載

学内で宣伝！

③プログラムの作成



1. 芸術文化論コースの紹介
2. 研究論文
3. ワークショップレポート
4. 現代版に書き換えた『から騒ぎ』の上演
5. 企画（座談会）
6. ゼミを通しての感想

1. はじめに
～文学部横断型プロジェクトゼミとは～
2. 研究チームの発表
3. プログラムチームの発表
4. ワークショップについて報告
5. 現代版『から騒ぎ』の上演
6. おわりに
7. 質疑応答

ゲスト講師

1. ドラマトウルク 横堀応彦さん
2. 振付家・ダンサー 北村明子さん
3. 演出家 石丸さち子さん

ドラマトウルク 横堀応彦さん (10月16日)

2009年3月

早稲田大学第一文学部総合人文学科演劇映像専修卒業。

2012-13年

ライプツィヒ音楽演劇大学大学院ドラマトウルギー科にて研究。

2014年3月

東京藝術大学大学院音楽研究科音楽文化学専攻博士後期課程修了。

2014年4月

フェスティバル/トーキョー プログラムコーディネーター。

2015年4月

東京芸術劇場事業企画課人材育成担当コーディネーター。

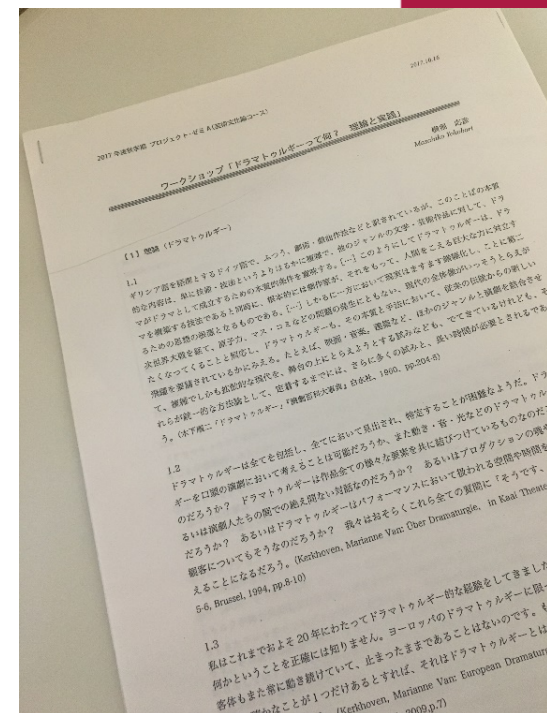
現在、立教大学・跡見学園女子大学・成城大学にて兼任講師を担当。また、演劇・オペラ公演にて定期的にドラマトウルクとして参加。

ワークショップ

- ◎ 横堀さんの経歴、活動の紹介
- ◎ ドラマトウルギーに関する講義、お話
- ◎ 実践（グループワーク）
 - ・ 演目ドラマトウルギー
 - ・ プロダクション・ドラマトウルギー
 - ・ 観客ドラマトウルギー

ワークショップで印象に残っている言葉

- ・昔はドラマトウルギーを単に「劇作法」と訳しておけばよかったところが、演劇作品の作り方や、劇作家との比重と上演との力関係が変わり、「劇作法」と訳すだけでは捉えられなくなっている
- ・テキストはもはや中心で上レベルの要素ではなく、他の要素と同等の重みを持つ



振付家・ダンサー 北村明子さん (11月20日)

1993年

早稲田大学第一文学部演劇専修卒業

1995年～1996年

文化庁芸術家在外研修派遣奨学金制度にてドイツに留学。ベルリンの振付センターTanzfabrikにて研修。

現在、

信州大学人文学部芸術コミュニケーション分野准教授

◎ **2015年～ アジア国際共同制作プロジェクト**
Cross Transit project

◎ **カンボジア・ブノンペン公演**を17年11月に開催。

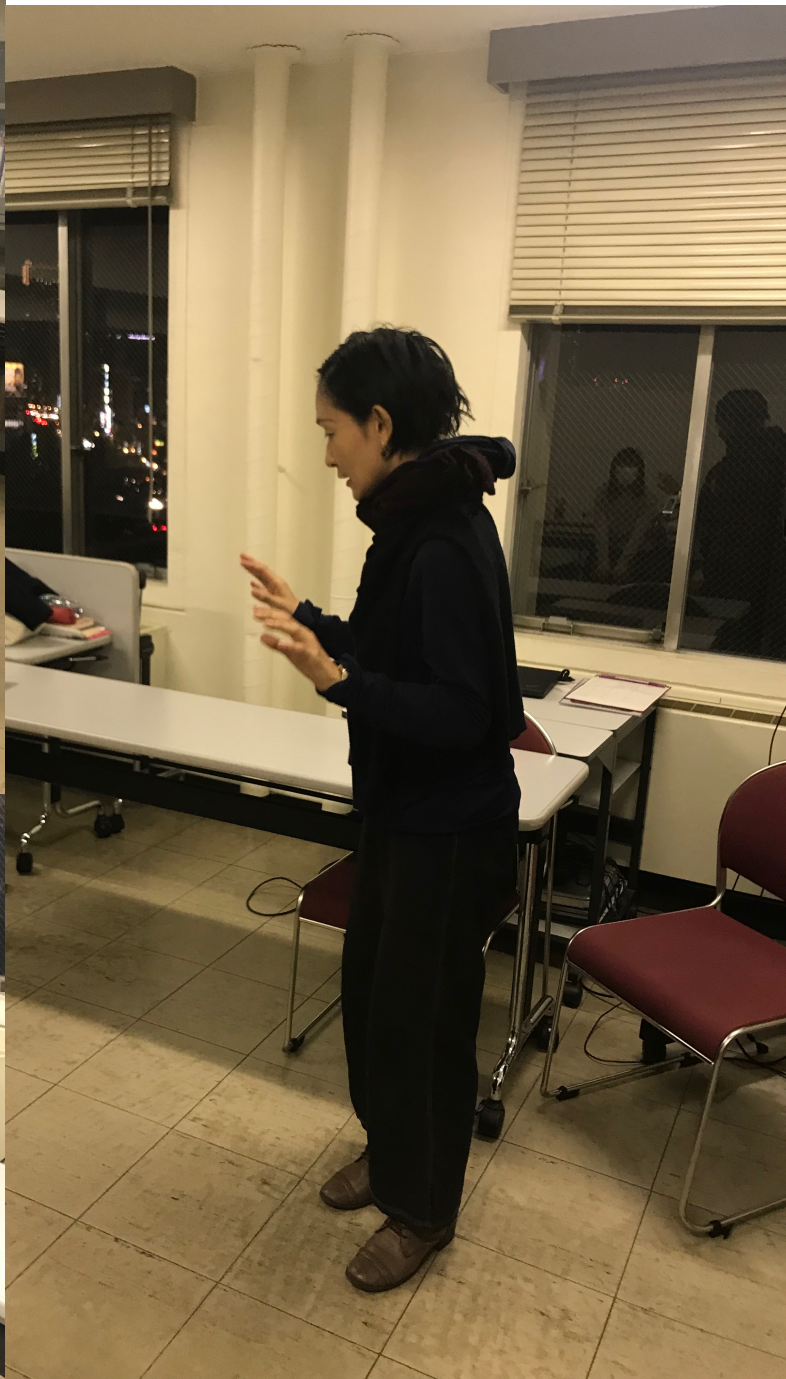
◎ **2018.3.28～30 Cross Transit “vox soil”**
@せんがわ劇場

振付家・ダンサー・北村明子さん (11月20日)

ワークショップ

- ◎ 北村さんの現在の活動について
- ◎ 北村さんの作品鑑賞
- ◎ 振付のワークショップ





動きの発展ツール

- ①組み換え
- ②スロー
- ③スピーディー
- ④リピート
- ⑤リバーズ
- ⑥リズム
- ⑦スケールを変える
- ⑧まわり道



振付は思考を動きに変換して表現する
ものであり、その身体表現によって
自分自身を解放することができるもの

演出家 石丸さち子さん (12月4日)

1986年

早稲田大学第一文学部演劇専攻卒業。

1981年～1993年

シェイクスピアシアター、蜷川スタジオ、蜷川カンパニーなどで俳優として活動。出演多数。

1993年～2008年

蜷川幸雄作品に演出助手/演出補佐として多数参加。

2009年

演出家として独立。

自身の創作母体Theatre Polyphonicを旗揚げ。

今月より上演される『マタ・ハリ』の訳詞・翻訳・演出を担当。
大阪・梅田芸術劇場メインホール (1/21～28) 、
東京国際フォーラム ホールC (2/3～18) にて上演。

演出家 石丸さち子さん (12月4日)

ワークショップ

- ◎石丸さん・ゼミ生 自己紹介
- ◎『から騒ぎ』第1幕第1場・第3幕第1場の読み合わせ
- ◎石丸さんによる総評・感想



1. はじめに
～文学部横断型プロジェクトゼミとは～
2. 研究チームの発表
3. プログラムチームの発表
4. ワークショップについて報告
5. 現代版『から騒ぎ』の上演
6. おわりに
7. 質疑応答

脚本チーム

担当：吉永佳世

上演のきっかけ

- ・ 岩切正一郎さんの授業
- ・ テクストの読み上げの可能性、「演じる」ことについての考察

選択した場面、その選択の理由

- ・ 第1幕第1場を選択
- ・ 第1幕第1場に書かれている要素、特徴の多さ

こだわったところ

- ・ 設定
- ・ 言葉遊び

脚本チーム

登場人物

ベネディック：レオナートをボスとするチームの一員、営業部所属。

クローディオ：レオナートをボスとするチームの一員、リサーチ担当。

レオナート：ベネディックやクローディオが所属しているチームのボス。

ベアトリス：レオナートをボスとするチームの一員。

ヒーロー：レオナートをボスとするチームの一員。

使者：レオナートをボスとするチームのサポートを担当する秘書的存在。





ベネディックとクロードを残して一同退場



1. はじめに
～文学部横断型プロジェクトゼミとは～
2. 研究チームの発表
3. プログラムチームの発表
4. ワークショップについて報告
5. 現代版『から騒ぎ』の上演
6. おわりに
7. 質疑応答

~ Much Ado About Nothing ~



2018.1.29 17:00~18:30

Sophia University 7-4A